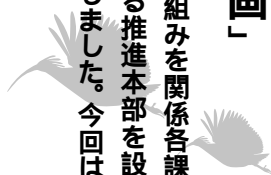


トキ 野生復帰に向けて

8

「佐渡市トキ野生復帰実行計画」

市では、昨年度、トキの野生復帰に向けた取り組みを関係各課が一体となって推進するために助役を本部長とする推進本部を設置して、「佐渡市トキ野生復帰実行計画」を策定しました。今回はこの計画の概要をお知らせします。



策定方針

トキの野生復帰には、野生生物との共生が可能となる環境の整備を図る必要があります。このような環境を次世代に引き継ぐための取り組みがあつてはじめて実現が可能となります。この計画は、国および新潟県の役割を踏まえながら、佐渡市が総合的かつ一体的に取り組む具体的な行動を定めたものです。

計画期間

国の「佐渡地域環境再生ビジョン」や「トキ保護増殖事業計画」に基づき、平成17年度から平成26年度までの10年間を計画期間とし、前期と後期に区分します。

前期実行計画

平成17年度から平成19年度までの3年間を前期実行計画期間とします。野生復帰順化施設



子ども環境学習会での水辺の生き物調査

が完成し、試験放鳥を目指した順化訓練が行われる期間でトキの野生復帰を図るための条件整備を重点的に行います。

前期実行計画の主な事業

昨年度制定された環境基本条例に基づいて、環境政策のマスタープランとなる環境基本計画を策定します。計画策定にあたっては、環境ワークショップと環境審議会を設置して広く市民や事業者、学者のみなさんから参画していただき、人とトキが共生



前トキ保護センター長近辻さんの講話
(トキ交流館で修学旅行生徒に)

する鳥づくりについて検討してもらいます。また、こどもエコクラブや市民環境講座を開設するとともに、環境教育に取り組むモデル学校を設置して、トキの野生復帰に向けた環境教育、学習を促進します。

トキの野生復帰に向けて環境保全型農業の普及を促進するため、今年度から新穂支所管内にモデル地区を設けて、水稲の不耕起栽培や低農薬栽培等に取り組み生産された米の有利販売の検討をします。

年間20万人以上の観光客が訪れるトキの森公園展示内容のリニューアルやトキ野生復帰にかかわるボランティア団体の活動拠点となっているトキ交流会館の施設充実もこの前期計画期間に行



ボランティアによる棚田復元
(新穂山中、白ヶ滝給餌田)

われる予定です。さらにトキを軸にしたエコツアーを推進するため体験型、滞在型エコツアーの開発やツアーガイドの養成にも着手します。

後期実行計画

平成20年度から平成26年度までの7年間を後期実行計画期間とします。小佐渡東部地域にトキを試験放鳥して、目標である60羽を定着させる期間です。前期実行計画の実施状況の推移と野生順化訓練等の進捗状況を把握しながら、平成19年度に見直しを行って後期実行計画に反映させます。必要に応じて計画期間の細分化も行います。

佐渡トキ保護センターではトキの増殖事業が軌道に乗り、今年生まれた22羽のトキを含めて現在80羽のトキが飼育されています。来年100羽の舞台を超えるのは確実であり、順化施設が

完成して野生復帰のための訓練が順調に進めば、平成20年度には試験的放鳥が開始される予定です。国、県、市ともそれまでに解決しなければならぬ課題を多く抱えています。3者が連携をとりながら地域住民やボランティア団体等の理解と協力を得て課題を一つひとつ解決していかなければなりません。

実行計画の全容は、佐渡市ホームページ「環境保健課トキ推進室」に掲載されていますのでご覧ください。

アドレス

http://www.city.sado.nigata.jp/sado_web/contents/kan-kyouhoken/toki/jikkou_keika-ku.htmです。



育すうするトキのつがい。人工ふ化したヒナを5日齢で巣に戻したも(5月31日撮影)
(佐渡トキ保護センター提供)

環境保健課トキ推進室

(新穂農業構造改善センター2階)

☎ 22 3111